

## 財団法人 日中医学協会

2011 年度共同研究等助成金報告書—調査・共同研究—

2012 年 3 月 15 日

財団法人 日中医学協会 御中

貴財団より助成金を受領して行った調査・共同研究について報告いたします。

添付資料：研究報告書

受給者氏名： 沈 潔   
所属機関名： 日本女子大学  
所属部署名： 人間社会学部 職名：教授  
所 在 地：神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1  
電 話：044-952-6850 内線：6850

1. 助成金額： 1000,000 円

### 2. 研究テーマ

「日本と中国を精通する医療ソーシャルワーカー（MSW）の人材育成に関する研究」

### 3. 研究組織：

日本側研究者氏名：沈潔	職名：教授
所属機関名：日本女子大学	部署名：人間社会学部
中国側研究者氏名：張秀蘭	職名：教授
所属機関名：北京師範大学	部署名：社会発展と公共政策学院

### 4. 当該研究における発表論文等

- ① 2011 年 5 月 27 日～5 月 30 日 上海国際会議に参加、発表  
上海復旦大学主催の『上海論壇』にて、「医療・介護専門職の国際移動とアジア経済発展に対する影響」をテーマに研究発表した。  
発表者：沈潔
- ② 2011 年 9 月 2 日～5 日釜山大学「東アジア社会保障・福祉」国際会議に参加、発表。  
「異文化ソーシャルワーカートレーニング」について発表した。  
発表者：沈 潔
- ③ 2011 年 7 月 15-18 日 第 21 回アジア・太平洋ソーシャルワーク会議（早稲田大学）に参加、発表。

「地域福祉とソーシャルワーカー」について発表した。

発表者：沈 潔

④2011年 9月2日～5日釜山大学国際社会保障・福祉国際会議に参加、発表。

「異文化ソーシャルワーカートレーニング」について発表した。

発表者：沈潔

⑤ 2012年2月25日 シンポジウム（東京・日本女子大学）

（会議資料の冊子を参考）

王 振耀「中国における介護の社会化と介護人材の育成」

楊 団「中国のコミュニティ医療におけるソーシャルワーカーの役割」

矯楊「中国における医療ソーシャルワーカーの育成の課題」（代理発表：沈潔）

山村 睦 「日本の社会福祉資格制度の近未来像」

小原真知子 日本の医療ソーシャルワーカー専門職教育の課題

上之園佳子 「日本の介護福祉人材教育の示唆」

## 5. 成果の概要

以前より深刻な高齢化が問題視されてきた日本では、人材教育、設備、制度などがかなり整備されてきており、中国の参考となる部分が多い。しかし逆に、日本の医療・介護の活性化に繋がるような中国からの情報発信も今後益々重要になるだろうという構想のもと、日中双方の福祉問題を対象に本研究活動を行ってきた。その総括ともいえる2月のシンポジウムでは中国の研究者および日本の医療現場に精通する実務者などを招き、両国の医療福祉に関し活発な意見の交換、交流をはかることができた。

今回は、共同研究者である張秀蘭氏（同じく北京師範大学公益学院）の代理として来日。研究者同士のハイレベルな意見交換、日本及び中国における今後のための研究ネットワークの構築などにおいて大きな役割を果たしてくれた。

また、9月～3月までの間に行った主な研究活動は下記の通りである。

### ① 2月24日 神奈川県での合宿の実施

タイトル：東アジア少子高齢化における介護人材について

参加者：左学金 社会科学院副院長

王振耀 北京師範大学公益学院院长

楊団、中国社科院社会政策研究中心

沈潔 日本女子大学 教授

趙軍 千葉商科大学 教授

矯楊 中華女子大学 副教授（家族事情で直前にキャンセル）

院生 1名

### ② 2月25日 東京でのニシンポジウムを開催

タイトル「医療・介護領域における福祉・介護人材の育成

—日本の経験と中国の発信—」

参加者：海外招聘3名（うち1人は家族の事情によりキャンセル）

国内招聘3名、

日本女子大学より3名（うち1人は副学長）

中国から王振耀氏、楊団氏、国内からは山村睦氏、小原真知子氏、上之園佳子氏を迎え、

日中両国における福祉人材の現状と課題、現在の取り組みなどについて発表とパネルディスカッションを行いました。他大の研究者や大学院生、学部生、福祉現場の職員など約 50 名余りが参加しました。リラックスした雰囲気の中、積極的な意見交換が行われ、今後の協力体制や共同の取り組みのための良い土台を作ることができました。

#### 6. 本研究における中国人共同研究者の役割及び業績

北京師範大学公益学院 教授 王振耀

王振耀教授（元中国民政部社会福利司司长）は、これまで日本の研究者には余り知られていなかった中国の介護の現状を明らかにした。例えば、中国においても介護の需要が急速に増しており、人材・設備・制度の拡充が求められていることである。特に人材においては今後大量の需要が見込まれており、人材育成のためのシステム整備を速やかに整えなければならないことが挙げられる。また、福祉の分野でも民間の力を積極的に活用していこうとしていることなども紹介された。

特に日本側の社会福祉士協会会長をはじめとして、学術レベルの交流のみならず、実務家との交流をはかることができた。また、日本の福祉領域における民間企業の役割についても意義のある提言を行った。

中国社会科学院社会政策研究中心 楊団

中国においても著名な社会政策研究者であり、社会活動家でもあった楊氏が、長年かけて取り組んできた中国農村衛生保健改革の現状と課題を日本に伝えたことは、大変意義のあることである。彼女の発表によって、中国農村の衛生保健改革には、農民の自治組織の力を積極的に活用することが有効であることや都市から招いたソーシャルワーカーの働きも非常に大きかったことが理解できた。

上海社会科学院 副院長 左学金

人口学とくに中国の高齢化研究の第一人者であり、今回の来日では、厚労省長官との交流など、ハイレベルでの交流をはかることができた。また、日本の福祉領域における民間企業の役割についても意義のある提言を行った。

中華女子学院社会工作学科 助教授 矯楊 （書面報告）

中国の医療ソーシャルワーカー育成の現状を紹介するとともに、いまだスタート段階にある育成システムにどのような課題があるのかを明らかにした（具体的には、テキストの整備、教師の育成、就職上の問題など）。

— 一日中医学協会助成事業 —

## 「日本と中国を精通する医療ソーシャルワーカー（MSW）の人材育成に関する研究」

研究者氏名・職名： 沈潔 教授

所属機関名： 日本女子大学人間社会学部

共同研究者名・職名： 張秀蘭 教授・学部長

所属機関名：（中国）北京師範大学社会発展と社会政策学部

### 要旨：

日本政府は、長期入院を伴う医療目的で日本に入国・滞在する外国人患者と、その付添人のための「医療滞在ビザ」を創設することを決めた。今後、日本の高度先進医療を受けたいという中国の富裕層の患者の来日は増加すると予想される。その人々の医療ニーズを応えるためには、医師や看護師の役割が重要であるが、日本と中国の事情に精通する医療ソーシャルワーカーの存在も求められる。本研究はこうした国際的通用性を有する医療ソーシャルワーカーの人材育成に当たって、実践的な課題は何かを解明することが目的である。

### 研究経過：

#### ① 上海国際会議の参加、発表及び現地調査

5月27日～5月30日 上海復旦大学主催の『上海論壇』に招聘され、「医療・介護専門職の国際移動とアジア経済発展に対する影響」をテーマに研究発表し

ました。国際会議のあいまに復旦大学社会発展と社会政策学院院長の彭希哲、人口研究所所長の王桂新所長、ミーティングを持ちまして上海医療機関の医療ソーシャルワークの現状などについて、意見交換しておきました。また、5月31日から6月1日の間に中国社会福祉会を訪ね、上海民間福祉団体の医療福祉人材の育成の状況について、意見交換しました。（旅費は復旦大学が負担した）

#### ② 中国ソーシャルワーク教育の第1線に立つ朱眉華を迎え、講演会を開催

7月15日に上海華東理工大学 ソーシャルワーク学科の教授朱眉華を迎え、日本女子大学で中国の四川大震災とソーシャルワーク支援及び大学における医療ソーシャルワーカー育成について、講演会・懇談会を行いました。福祉現場の職員、大学院や学部生の約20人が参加しました。

#### ③ 9月2日～5日釜山大学国際社会保障・福祉国際会議に参加、発表（沈潔）

発表テーマ「異文化ソーシャルワーカートレーニング」を題に発表した。

#### ④ 9月6日～11日研究調査、共同研究者との打ち合わせなど（沈潔）

北京師範大学共同研究者の張秀蘭・王振耀 教授との意見交換

北京大学医学部劉繼同教授との意見交換

北京中華女子学院ソーシャルワーク学部矯楊副教授との意見交換

#### ⑤ 2月24日 神奈川県での合宿の実施（予定7人、実施参加6人）

タイトル：東アジア少子高齢化における介護人材について

#### ⑥ 2月25日 東京ミニシンポジウムを開催

タイトル「医療・介護領域における福祉・介護人材の育成—日本の経験と中国の発信—」

参加者：海外招聘3名（うち1人は家族の事情によりキャンセル）

国内招聘3名、日本女子大学より3名（うち1人は副学長）

他大の研究者や大学院生、学部生、福祉現場の職員など約50名余りが参加しました。リラックスした雰囲気の中、積極的な意見交換が行われ、今後の協力体制や共同の取り組みのための良い土台を作ることができました。

### 期待できる結果：

上述した実践的な課題を明らかにする研究は、今後の日中医療ビジネスの展開に当たって、教育プログラムの提供や政策提言が可能になる。また、研究成果が、今後のアジア地域全体の医療ソーシャルワーカーの質の向上に貢献することも期待できる。